

# 三心を磨く

学校だより No. 6

令和3年9月15日(水)発行

須坂市立東中学校

文責：嶋田 和美 (教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

## 9月の校長講話より ～ 食品ロスによる温室効果ガスの排出量から 1人1人がSDGsのアンテナをもち、小さなヒーローにならなければ…

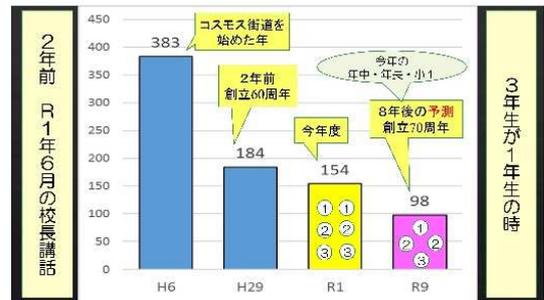
9月になりましたが、新型コロナウイルス感染症については、未だに終息の兆しが見えない日々が続いていますが、東中学校では、東祭へ向けて準備が粛々と進められています。8日(水)には、校長講話が、職員室より各教室へオンライン配信にて行われました。

### アズマフラワーガーデンは、東中の「持続可能」SDGsの象徴



おはようございます。今、アズマフラワーガーデンの花が鮮やかに咲いています。体育館裏のフェンスには、写真のような表示が取り付けられ、地域にもアズマフラワーガーデンの願いが発信されています。

3年生が1年生だった2年前の6月、校長講話で、過去・現在・未来の東中の生徒数の推移を紹介しました。



そして、全校生徒が100人を割り込む可能性がある8年後、どんな問題に直面し、どうか東ミーティングで考え合いました。

【問い】  
東中の行事や生徒会活動などが今のままだとすると、8年後の生徒たちは、どのような問題に直面するだろう。

- 東ミーティングで、思いつくまま問題を出し合う。
- 時間は5分
- ミーティングの結果の共有は別の機会に

その結果、当時取り組んでいたコスモス街道の取り組みについて、このままでは持続困難という意見が出され、10月の校長講話で再度話題にしました。



1・2年生は、コスモス街道のことを知らないかも知れませんが、平成6年から地図の下の方の赤い点線のところ、鮎川沿いの約500メートルに、最初はコスモス、途中からサルビアとカンナを植えて、地域の緑化活動に生徒会として取り組んでいました。25年以上続いた取り組みです。

持続困難なコスモス街道をどうすればよいのか、正解が1つではないこの問題について、持続可能をキーワードに、様々な点から考え合い、納得できる答えを探してもらいました。

持続可能

正解が一つではない「コスモス街道」の問題

納得できる解を見出そう

安全・時間確保

伝統＝精神

何のために

どこで

何を



その結果が、昨年度から始まったアズマフラワーガーデンです。私は、東中の「持続可能」SDGsの象徴と受け止めています。



そして、現生徒会は、SDGsの視点で生徒会活動を見直し、全校で一丸となって取り組んでいます。

### 飛行機と食品ロス、どちらの方が温室効果ガスの排出量が多いと思いますか。

ここからが、今日の本題

13 気候変動に具体的な対策を

気候変動  
⇒ 地球温暖化  
⇒ 温室効果ガス

【問い】  
温室効果ガスの排出量が多いのは、どっち？  
①飛行機（国内国外の航空機やヘリコプターなど）  
②食品ロス（食べられる食品などを廃棄すること）

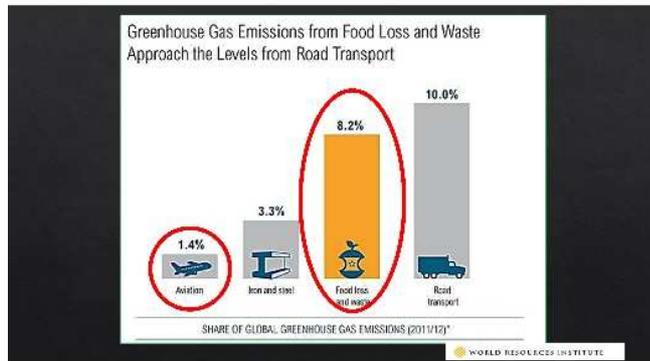
さて、ここからが今日の本題です。SDGs 13番の目標「気候変動に具体的な対策を」についてです。気候変動と言えば、地球温暖化。その原因は温室効果ガスです。温室効果ガスは、グラフにあるように、ガソリンなどの化石燃料を燃やすことで発生する二酸化炭素、森林の減少によって増える二酸化炭素、メタンガスなどですが、ここで問題です。

飛行機と食品ロス、どちらの方が温室効果ガスの排出量が多いと思いますか。

フォームを投稿しましたので、各自回答して送信してください。

皆さんの予想は「②食品ロス」が多いですね。それでは正解です。

温室効果ガスの排出量が多いと思う方を選び、送信しましょう。  
130 件の回答



排出された温室効果ガスのうち、飛行機は1%台、食品ロスによるものは8%台、つまり、飛行機よりも食品ロスによる温室効果ガスの影響が大きいのです。

### 世界の食糧生産量の三分之一が捨てられている

私がこのことを知ったきっかけは、今年の6月4日の信濃毎日新聞の記事からです。

この記事の中では、飛行機よりも食品ロスの方が温室効果ガスの排出量が多く、自動車によるものとほぼ同じくらいだということ。

2010~16年に排出された温室効果ガスの排出量

- ・飛行機によるものは1%台
- ・食品ロスによるものは8~10%  
⇒ 自動車によるものとほぼ同じ

2021年3月 国連環境計画

- ・世界の食糧生産のうち消費者が手に入れられるものの17%が廃棄
- ・国連食糧農業機関  
⇒ 世界の食糧生産量の1/3が捨てられている



そして、世界の食糧生産のうち、私たち消費者が手に入れられるものの17%が廃棄されていること、世界の食糧生産量の三分之一が捨てられていることなどが指摘されています。

## 東京オリンピックの会場での食品ロスは13万食



食品ロスについては、先日こんな記事もありました。8月28日の朝日新聞です。東京オリンピックの会場で手配したお弁当が、7月3日からの1ヶ月間で、13万食が廃棄されたというのです。

13万食と言ってもあまりピンとこないと思うので、私たちが食べている給食に置き換えてみましょう。

東中には、毎日170人分の給食が届けられます。そうすると、13万食とは、東中の給食765日分に相当します。給食は年間200日くらいなので、廃棄された13万食とは、東中の約4年分の給食の量です。

ちなみに、須崎市学校給食センターが市内小中学校用に毎日作る給食は、4300食です。13万食は、給食センターが作る給食30日分に当たるのです。

この記事では、全部で42あったオリンピック会場のうち20会場についての調査結果なので、実際にはもっと多くの食品ロスが発生していたと考えられます。

### 東中の給食の食品ロスは、8.2%

ところで、私たちの給食についてはどうでしょうか。

2学期がスタートした8月20日から31日までの8日間の東中の給食について、給食センターに聞いてみました。

汁物と牛乳を除く8日間の給食は、一人当たり2.5kg、学校全体では442.6kg届けられました。

そして、この8日間で出た残菜の合計は36.5kgで、届けられた給食の8.2%が食品ロスとなりました。

そこで、もし、1人1人がスプーン小さじ1杯、約5g分、頑張って食べたならどうなるか計算してみました。

全校で毎日スプーン1杯頑張れば、8日間で6.8kgを無駄にせずに済みます。すごく頑張って、毎日スプーン5杯分を頑張れば、残菜はほとんどなくなります。



### 消費されたエネルギーが、すべて無駄になる

では、なぜ食品ロスが多い温室効果ガスをたくさん排出するのでしょうか。食べ物が皆さんの所に届くまでには、多くの過程をたどるのです。そして、すべての過程でたくさんのエネルギーを消費し、温室効果ガスを排出しているのです。「食品ロス」は、それまでに消費されたエネルギーが、すべて無駄になってしまうことが問題なのです。

### 東中の給食の残菜の行方は

ところで、皆さんが出した残菜の行方を知っていますか。

塩分が含まれない主食や野菜くずは、「その里」にある「たい肥場」へ、おかずや調理済みのものは、高山村にある「たい肥場」にそれぞれ運ばれて、たい肥になってリサイクルされます。無駄にはなっていません。

でも、本来、皆さんの口に入るために使われたエネルギーは結局無駄になっています。それに加えて、たい肥にするために、新たなエネルギーが使われてしまうことを見落としてはいけません。

**五輪会場 廃棄13万食**

もし、これが給食だったら

東中 毎日の給食=170食  
 $130,000 \div 170 = 765$   
 ※765日分の給食  
 ⇒年間の給食200日  
 ⇒約4年間分

須崎市 毎日の給食=4300食  
 $130,000 \div 4300 = 30$   
 ※30日分の給食

全日本各地の20会場についての調査

私たちの給食はどうだろう

8/20~31 (8日間) 東中

私たちが食品ロスに負担している

8日間に届けられた給食の合計 (主菜・副菜・主食)  
 一人当たり ⇒ 約 2.5kg  
 学校全体 ⇒ 約442.6kg

8日間の学校全体の残菜合計 ⇒ 36.5kg

届けられた給食の 8.2% ※10%を超えた日もある

8日間の学校全体の残菜合計 ⇒ 36.5kg

スプーン1杯(小さじ)の力

- 小さじのスプーン1杯=5g
- $5g \times 170人 \times 8日 = 6800g = 6.8kg$

スプーン	分量(g)	人数	日数	合計の分量(kg)	残菜量(kg)
1	5	170	8	6.8	29.7
2	10	170	8	13.6	22.9
3	15	170	8	20.4	16.1
4	20	170	8	27.2	9.3
5	25	170	8	34	2.5

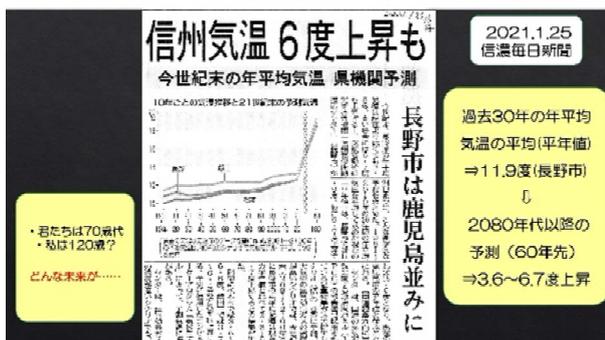
## 一つの物事には様々な側面があり、多様な問題が含まれている

今日は「食品ロス」を窓口に、SDGsの気候変動の視点から考えましたが、その他にも関連する多くの視点があります。

一つの物事には様々な側面があり、多様な問題が含まれているのです。

今年の1月25日には、こんな記事もありました。60年先の予測ですが、県内の平均気温が6度上昇するかも知れないという内容です。

60年後突然気温が上昇するわけがなく、徐々に徐々に上昇すると思われますが、私たちの生活・未来はどうなるのでしょうか。



何かに関心を持って身の回りを見ると、関心を持つ前には気にも留めなかったことでも、「おや？」「あれ？」と新たに気になることが増えてきます。

そんなSDGsのアンテナをぜひ1人1人がもっていてほしいと思います。問題を解決してくれるスーパーヒーローはどこにもいません。皆さん1人1人が小さなヒーローになればこの問題は解決しないのです。



最後に、先週の金曜日の信濃毎日新聞です。

「長野SDGsプロジェクト」では、今月を「長野SDGsウィークス」と定めて、県民一丸となってSDGsについて考えようという企画を推進しています。

その企画の全面広告です。学校関係としては唯一、東中が紹介されています。

注目されている皆さんのSDGsの取り組みと東祭、ぜひ有意義なものにしましょう。

おわります。



## 生徒の感想 生活ノート「三心自立」より

○今日の朝「校長講話」がありました。「食品ロス」のことについての話でした。給食の残食は8日間で、約36kgで、全員がスプーン1杯分多く食べることで約6kg減ることが分かりました。地球にやさしく、たくさん食べたいです。

○今日は給食をたくさん食べました。残食の量について校長講話で聞きました。小学校1年生のころから大好きな給食なので、「残食0」を目指したいです。

○今日、校長講話があり、給食の時間に、Cさんが「食品ロス」のことに触れて、クラスに話をされていて、良いなと思いました。